



早稲田大学人間科学部
公募制学校推薦入学試験

FACT 選抜

Fundamental
Academic
Competency
Test

2017年4月以降入学者向け

FACT 選抜

早稲田大学人間科学部への入学者に期待される“学術的探究のための基礎的な能力”を総合的に評価するための入試として、“FACT 選抜”を 2017 年度入学者向けから新たに導入します。



SAPIENTIA INTRANTIBVS VIRTUS EXVNTIBVS

入り来たらん者に英知を 去る者に勇気を、力を

“5つの力”を重視した選抜

現代社会の諸問題に対する“人間科学的ソリューション”を提供するために必要と考えられる“5つの力”（=クリアにする力）について、出願書類（事前課題を含む）、論述試験、面接試験を通じて総合的に評価します。

対話の力 _____ **C**ommunication

論理の力 _____ **L**ogic

表現の力 _____ **E**xpression

分析の力 _____ **A**nalysis

省察の力 _____ **R**eflection

現実世界で生じている問題の多くは、いくつかの要因が絡まりあい、また相互作用することで、一定の解決方法を定めにくい複雑さを有しています。“5つの力”によって問題に果敢にアプローチし、“クリアに”しようとする働きかけのプロセスを積極的に評価します。

公募制学校推薦

教科に関する幅広い基礎学力と、教科の枠組みに必ずしもとらわれない実践的な知的態度が、高等学校および中等教育学校における学びの総体としてバランスよく、かつ高い水準で身につけられていることを重視する観点から、学校推薦による入学試験制度とします。また、意欲ある優秀な志願者を広く募集するため、公募制とします。各校からの推薦者数に制限は設けません。

募集学科および募集定員

全学科（人間環境科学科、健康福祉科学科、人間情報科学科）で募集を行います。志願する学科を一つ選択したうえで出願していただきます（学科の併願は不可）。募集定員は若干名とします。

理科と国語の基礎学力を重視

科学における仮説構築・仮説検証のプロセスを推進するためには、理科的な発想、すなわち、実験・観察を正確に遂行するための確かな技術、現象を的確に捉える鋭敏な知覚、そして高度な思考力と忍耐力が要求されます。

また、科学的な発見は、それが公表され、理解されることによってこそ広く社会に貢献するものとなることから、複雑な現象を正確かつ簡潔に、そして、わかりやすくまとめるための国語力が必要です。

このような観点から、早稲田大学人間科学部が実施する FACT 選抜では、理科と国語の力を特に重視します。



外国語資格・検定試験^{1, 2}の結果を評価

世界の学問的知見に触れ、また異なる文化、異なる価値観と接するために、高校生としての基礎的な外国語能力を、第三者機関が実施する外国語資格・検定試験の結果により評価します。

2017年4月入学者を対象とした選抜においては、該当する外国語資格・検定試験の試験日が2015年4月1日以降で、かつ出願期間中に提出可能なスコア等が有効です。出願に備えて早めに各外国語資格・検

¹ 指定を予定している資格・検定試験は以下の通りです：TOEIC®、TOEFL® (iBT)、IELTS (Academic Module)、GTEC for STUDENTS (Advanced)、GTEC CBT、TEAP (技能パターンは問わない)、実用英語技能検定試験、ドイツ語技能検定試験、実用フランス語検定試験、実用中国語検定試験、HSK (中国語検定)、スペイン語技能検定

² 学校教育法の第1条に規定されている国際バカロレアプログラムを実施している教育施設の在籍者で、国際バカロレア資格を取得見込みの者は、IB Predicted Gradesを提出することで外国語資格・検定試験の結果の提出に代えての出願が可能です。

定試験等を受験されることをお勧めします。

なお、出願においてはスコア等に最低基準点等は設けません。

実施時期

- ・ 出願期間：2016年11月初旬
- ・ 1次選考（書類審査）：2016年11月上旬～中旬
- ・ 1次選考合格発表：2016年11月中旬頃
- ・ 2次選考（筆記および面接）³：2016年11月下旬
- ・ 最終合格者発表：2016年12月中旬

³ 1次選考（書類選考）合格者に対してのみ2次選考を実施します。

出願資格の概要

- ・ 2017 年 3 月に高等学校または中等教育学校を卒業見込みの者。文部科学省の認める在外教育施設（日本の高等学校に相当する）⁴ を 2016 年 4 月 1 日以後に卒業した者を含む。
- ・ 学校長が推薦する者で、当学部への入学を第一志望とし、合格した場合は入学を確約できる者。
- ・ 高等学校または中等教育学校後期課程の 1 年次 1 学期または前期から 3 年次（4 年制定時制は 4 年次）1 学期または前期までの調査書記載の「全体の評定平均値」が 3.9 以上 の者で、「理科」および「国語」のそれぞれ 3 科目以上を履修

⁴ 海外において主に日本人を対象に日本の教育制度を実施している文部科学大臣認定等在外教育施設（高等部を設置するもの）を指します。日本の教育制度に基づく高等学校または中等教育学校からの志願者で、在学中の留学により卒業期が繰り下がり、2016 年度内の卒業となったものを含みます。

し、「理科」および「国語」で履修したすべての科目を合わせた評定平均値が4.3以上の者⁵。

- ・ 高等学校または中等教育学校後期課程の1年1学期または前期から3年(4年制定時制は4年)1学期または前期までの調査書記載の「欠席日数」が40日以内である者。

⁵ スーパーサイエンスハイスクール (SSH) やスーパーグローバルハイスクール (SGH) など、独自の理数系科目に重点をおいたカリキュラムにおいて、数学および理科の内容に相当する、またはそれ以上高度な内容をカリキュラム独自の科目名称により履修している場合や、「理系数学」「理系物理」「理系化学」「理系生物」など発展的な内容を履修している場合は、その科目を数学・理科に振り替えることができます。

“事前課題”と“論述試験”を有機的に接続

FACT 選抜のアドミッション・ポリシーに則り、出願書類に含まれる“事前課題”では、特定の現象について志願者自身が実際に観察もしくは調査、検討し、その事実に基づいて要点をまとめ、合理的な考察を加えることが求められます。また、2次選考における“論述試験”では、データや素材文の正確な読み取りと、読み取られた現象の模式的な（グラフ等を効果的に活用した）表現、それらを踏まえた上での複数の異なる立場からの主張の可能性の検討、およびそこから合理的に引き出される自身の主張の展開、等が求められます。

これら“事前課題”と“論述試験”の内容は抽象的な水準でつながっています。したがって、志願者が“事前課題”での取り組みを通じて行う考察が、“論述試験”に臨むための準備ともなるような出題を行う予定です。

2次選考の実施会場

1次選考（書類選考）合格者に対する2次選考（筆記および面接）は、早稲田大学所沢キャンパス・人間科学部で実施します。

サンプル問題の公開

1次選考（書類審査）の対象となる“事前課題”のサンプル課題、および2次選考における“論述試験”のサンプル問題を、2016年1月25日（月）頃に人間科学部 Web サイトにて公開の予定です。

入試要項・出願書類等の公開

試験の詳細に関して記載される入試要項および出願書類等は、2016年6月下旬以降に人間科学部 Web サイトにて公開の予定です。

早稲田大学人間科学部 Web サイト

<http://www.waseda.jp/fhum/hum>



本件に関するお問い合わせ先

早稲田大学 所沢総合事務センター
入試広報課

電話: 04-2947-6855

メール: human-enter@list.waseda.jp

2015年12月9日 作成

2015年12月9日 修正

高等学校および中等教育学校の教科科目に関する幅広い基礎学力と、理科・国語の2教科についての特に優れた基礎学力を持ち、加えて、データを客観的に読み解き要約する力、そこから得られた洞察を科学的知見と結びつけて分析する力、それらを批判的かつ論理的にまとめ、わかりやすく提示する力を高い次元で併せ持つ受験生、研究するという営みへの高い関心と尽きない意欲、新しい分野への好奇心とチャレンジ精神に富んだ受験生を求めます。

高等学校および中等教育学校における全教科の評定平均値をバランスよく評価するとともに、科学への関心と思考力、論理性、論述力、表現力を重視する観点から、理科・国語の2教科の評定平均値を特に重視します。高等学校および中等教育学校で

の活動状況、人間科学部への志望動機と学習への意欲、大学での学習目標と自身の将来像の具体性、およびそれらが志望する学科と適合しているかについて、提出書類および面接等で評価します。大学入学後に世界の学問的知見に触れ、また異なる文化、異なる価値観と接するために、高校生としての基礎的な外国語能力を、第三者機関が実施する外国語資格・検定試験等により評価します。論述課題では、データを客観的・批判的に読み取り要約する分析力、得られた洞察の合理性を自ら確認し、また展開する論理性や省察性、示すべき事柄を必要に応じて図や表を併用しながら他者にわかりやすく伝える表現力を評価します。分析力・思考力・判断力・論理性・省察性・表現力については、面接における対面でのやりとりを通じて総合的に評価します。

人間科学部は、諸学問の総合によって世界に貢献するというその理念を実現するために考案された先進的なカリキュラムを通じて、「リテラシー」「方法論・専門性」「学際性・多様性」「デザイン力」「協働性」「反省性・倫理観」「自己教育」の7領域17項目にわたる総合力を学生が獲得できるように最大限努力します。しかしこれらの能力の獲得は、学生自身が主体的かつ真摯に勉学に取り組むことによつてのみ実現されるものでもあります。したがつて人間科学部生は、その卒業時において、これらの力を必要かつ十分な水準において身につけていること、また、これらを国内外の実践の場で活用し社会に貢献すること、あるいは継続的な研究・研鑽によつてその水準をさらに高めることが求められます。